

秋田県書道連盟会報

第 121 号 連 盟
 秋 田 県 書 道 連 盟
 事務局
 秋 田 市 泉 野 一 丁 目 18-1
 浦 湯 舟 彦
 三 沼 雅 部
 長 沼 雅 彦
 編 集 報 部
 発 行 人 長 沼 雅 彦
 (題字：長 沼 雅 彦)
<http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>



秋田県書道連盟 会長
 佐川 博之

「正を踏んで懼るるなかれ」は、秋田魁新報社の社是である。

正しいと信じたことならば、何事にも臆することなく、果敢に立ち向かえという社の方針。記者へのいましめでもある。

十九世紀のイギリスの政治家ジョン・ブライトの言葉から引用したと、弊社の社史には記録されている。

ブライトは保護主義に異を唱えて自由貿易の拡大を目指し、軍事力で他国を侵略・支配する帝国主義に反対した政治家だ。大國が「自國第一主義」を振りかざし始めた現代と重なるが、ブライトは前述のような気概をもつて巨大な力に挑んだのだった。

魁の記者たちは、創刊時からしばらくの間「踏正勿懼」の四文字が刷り込まれた原稿用紙に襟を正して向き合い、鉛筆を走らせていたようである。

◆ ◆ ◆
 九月中旬に西馬音内にある弊社の新聞販売店を訪ねたときのことだ。作業場に隣接する座敷にこの「踏

正勿懼」の書が額装して飾られていた。土間のある昔ながらのたたずまいの建物の中にあつて、それは見事なまでの存在感を醸し出しており、いやおうなしに目に留まった。

書いたのは井上廣居（ひろやす）であった。

明治三十一年から魁の社長を十九年間務め、その間、県議会議長や衆議院議員としても手腕を発揮した人物だ。大正五年に秋田市長に就任し四期十七年、市長を退いた後の昭和十二年から二十年まで再び魁の社長を八年務めた異色の経歴の持ち主。私どもの会社の礎を築いた人物であり、個人的に崇拜している大先輩である。

◆ ◆ ◆
 明治二十二年、前身の秋田新報が当時の知事を批判したとして発行停止処分を受けた。官憲による言論弾圧が日常茶飯事の時代だった。ただしこの年は大日本帝国憲法の発布前で、翌年には帝国議会が創設されるといふ歴史の節目にあつた。「そんな時期に新聞がないのでは県民は不幸だ」として、秋田魁新報発刊に加わつたのが井上



であつた。

志を中央に求めず、徹底して秋田のために力を尽くす。そんな明治の気骨ある男たちが作り上げた会社の社是である。

ことしの三月、井上から数えて十二代目の社長に就任したばかりの私には、百年余りの時空を超え、井上から力強いメッセージを頂戴したような感覚にとらわれ、しばし見とれてしまった。

◆ ◆ ◆
 うまいとか、好みの文字であるといったことではなく、訴える力が墨書からひしひしと伝わってきたのだ。 「臆することなく、立ち向かえ」との言葉とともに。

◆ ◆ ◆
 井上の雅号は「雪竹」である。若いころ、秋田市で漢学の指導を受けた師から頂戴したという。「雪のように潔白で、竹のように強い」といった意味が込められているようだ。

◆ ◆ ◆
 井上は言論弾圧に屈することなく厳しい言論の人（竹）であり続けた。市長としては茨島工場地帯の整備や、秋田・船川港の連結開発、大秋田市構想など、スケールの大きな仕事に次々に挑んだ。高潔な政治姿勢（雪）も高く評された。

◆ ◆ ◆
 ことし春に、前任の小笠原直樹に代わつて秋田県書道連盟の会長を拝命した。多くの会員の方々にはこの会報をもつて初めてのご挨拶となる。新聞社の社長が代々、連盟会長を務めるのが通例のようだが、特定の流派に偏ることなく、中道を歩むべき象徴としての役割が期待されているのだと解釈している。

◆ ◆ ◆
 同時に、より多くの方々に書に親しんでもらうための知恵と工夫を求められていることも承知している。会員の皆さんの活動ぶりを可能な限り紙上で紹介するとともに、新たな試みにも果敢に挑戦していくつもりである。

(秋田魁新報社代表取締役社長)

令和元年度定期総会

●平成31年4月29日
●会場 イヤタ力(秋田市)

本年度定期総会と理事会が秋田市イヤタ力で開かれました。

役員改選で会長に佐川博之・秋田魁新報社長を新任、理事長に長沼雅彦が再任されました。任期は2年。前会長の小笠原直樹・秋田魁新報社相談役は名誉顧問に就任されました。

- 名誉顧問** 小笠原直樹
- 顧問** 内藤 翠雲
- 会長** 佐川 博之
- 理事長** 長沼 雅彦
- 副理事長** 藤原 豊道(兼展覧会部長)
- 北畠 龍門**
- 秋田 師山**
- 下田 耿禾**
- 三浦 湯舟(総務部長)**
- 竹村 天祐(研修部長)**
- 阿部 清楓(広報部長)**
- 上野 泰夫(広告部長)**
- 相原 蕙花(IT部長)**
- 山谷 喜元**



監事

- 齊藤 玲子
- 東海林 汎山
- 伊藤 清子
- 会津千寿子
- 石井 竹華
- 道川屋 悟
- 黒木 天籟
- 高橋 抱雲
- 富樫 弥恵子
- 田中 敏雄
- 篠田 篁畝
- 竹内 玄峰

平成30年度 第10回秋田県新春書初め席書大会決算書

平成31年3月31日
(席書大会 平成31年1月13日)

収入総額 956,600円
支出総額 949,666円
差引残額 6,934円 (本会計繰り入れ)

収入の部

(単位：円)

費 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
広 告 協 賛 金	600,000	630,000	30,000	協賛社42件 1件15,000円
参 加 費	340,000	303,000	△ 37,000	(幼、小、中、高、大学 計442人) (一般 82人) 442人× 500円=221,000円 82人×1,000円= 82,000円
薄 茶 席 売 上	22,000	23,600	1,600	200円×118枚
雑 収 入	1,000	0	△ 1,000	
連 盟 補 助 金	50,000	0	△ 50,000	
合 計	1,013,000	956,600	△ 56,400	

支出の部

(単位：円)

費 目	予 算 額	決 算 額	増 減	備 考
魁 広 告 掲 載 費	378,000	378,000	0	30.12.23 魁新聞紙上掲載
オープニング行事委託費	50,000	0	△ 50,000	急病により中止
お 雑 煮 等 委 託 費	200,000	200,000	0	1,000食分の材料費、その他経費
薄 茶 席 委 託 費	50,000	50,000	0	茶席委託
華 道 連 盟 委 託 費	40,000	40,000	0	生け花展示委託
書道パフォーマンス委託費	60,000	100,000	40,000	用紙代、及びその他経費(大曲高校他4校による)
司 会 委 託 費	10,000	0	△ 10,000	
通 信 費	20,000	42,280	22,280	関係先への文書郵送料
消 耗 品 費	90,000	34,667	△ 55,333	用紙、文具等会場整備用品
印 刷 製 本 費	20,000	19,867	△ 133	チケット等用紙、その他
雑 費	2,000	1,404	△ 596	振込み手数料
表 彰 費	20,000	11,448	△ 8,552	表彰景品代
筆 耕 費	45,000	45,000	0	賞状筆耕料
人 件 費	28,000	27,000	△ 1,000	作品展示補助作業
合 計	1,013,000	949,666	△ 63,334	

平成30年度 決算書

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

収入総額 1,905,159円
支出総額 1,643,260円
差引残額 261,899円 (次年度繰越金)

収入の部

(単位：円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	備 考
前 年 度 繰 越 金	139,224	139,224	0	
会 費	816,000	750,000	△ 66,000	本年度250名
寄 付 金	120,000	120,000	0	常任理事・理事 60名
事 業 収 入	860,000	835,934	△ 24,066	会報広告 ¥92,000 小品展図録広告 ¥223,000 出品料 ¥514,000(連盟展、小品展)。書初め席書大会 ¥6,934。
雑 収 入	30,776	60,001	29,225	総会等祝¥40,000 その他¥20,001
積 立 金 取 崩 収 入	0	0	0	
合 計	1,966,000	1,905,159	△ 60,841	

支出の部

(単位：円)

費 目	予 算 額	決 算 額	比 較 増 減	備 考
事 務 費	387,000	292,075	△ 94,925	
消 耗 品 費	38,000	28,758	△ 9,242	文具品、コピー用紙、出納簿等
通 信 費	159,000	135,123	△ 23,877	郵送料、切手、案内ハガキ等
会 議 費	100,000	76,348	△ 23,652	総会、役員会議会場費等
交 通 費	80,000	44,640	△ 35,360	役員会議等旅費
諸 費	10,000	7,206	△ 2,794	各種振込み手数料
事 業 費	1,516,000	1,271,185	△ 244,815	
総 務 部 費	45,000	28,740	△ 16,260	事務用品等、打合せ諸費
研 修 部 費	160,000	140,720	△ 19,280	各研修会、講師謝礼等年間部活動費
展 覧 会 部 費	267,000	204,220	△ 62,780	連盟展、小品書展等 //
広 報 部 費	50,000	48,990	△ 1,010	会報発行(年2回)等 //
広 告 部 費	40,000	37,866	△ 2,134	事業広告協賛依頼等 //
I T 部 費	110,000	90,820	△ 19,180	ホームページ維持管理等 //
連 盟 展 事 業 費	230,000	232,760	2,760	会場費、目録、案内ハガキ等その他
書 初 め 大 会 費	50,000	0	△ 50,000	
印 刷 出 版 費	469,000	386,640	△ 82,360	会報、諸会合資料作成等
筆 塚 供 養 費	45,000	50,429	5,429	筆供養謝礼、参加者(子供)記念品代
活 性 化 委 員 会 費	50,000	50,000	0	通信費、会場費等年間部活動費
負 担 金	30,000	30,000	0	県芸文協年会費
表 彰 費	10,000	0	△ 10,000	
慶 弔 費	20,000	0	△ 20,000	
雑 費	3,000	0	△ 3,000	
予 備 費	0	50,000	50,000	H30年度積立金として
合 計	1,966,000	1,643,260	△ 322,740	

平成30年度 積立金現況

平成31年3月31日 現在
(単位：円)

項 目	積立金金額	備 考
前 年 度 末 残 高	211,621	
30 年 度 積 立 金	50,000	
預 金 利 息	1	
積 立 取 り 崩 し	0	
合 計	261,622	次期繰越金



令和元年度 事業計画

	総務部	研修部	展覧会部	広報部	広告部	I T 部
4月	監査会 4月7日(日)10時～ 正副部長会議 4月14日(日)10時～ 理事・常任理事会 4月20日(土) 13時半～ 総会・懇親会 4月29日(月.祝) 10時半～				会報発行・県書道連盟 展に向けた広告依頼活 動 (総務部)	連盟ホームページの管 理運営 (連盟の紹介、組織 図、行事カレンダー の作成、各種行事の 参加者募集、会報のイ ンターネット公開、 等々)
5月	理事・常任理事会 5月12日(日) 13時半～ 県芸文協決算総会 5月30日(木)ビューH					
6月						
7月	・正副部長会議 ・活性化委員会委嘱状 交付式(第一会館) 7月14日(日)15時～					
8月	筆供養・懇親会 (日吉八幡神社) 8月4日(日) 神事：15時半～ 懇親会：16時～ (パークホテル)		県書道連盟展 (アトリオン) 8月2日(金) ～5日(月) 互評会：4日(日) 13時～15時			
9月				会報発行 (121号)		
10月		実技研修会 (秋田市) 10月6日(日) 14時～ 懇親会 17時～			書初め大会と新春小品 書展に向けた広告依頼 活動 (広告部)	
11月						
12月						
1月	新春書初め席書大会審査 (さきかけホール) 1月19日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月30日(木) ～2月2日(日) 授与式2月2日(日)	新年研修会 1月26日(日)	新春小品書展 (さきかけホール) 1月30日(木) ～2月2日(日) 書初め展覧会 (さきかけホール) 1月30日(木) ～2月2日(日)			
2月						
3月	県芸文協予算総会		秀作美術展 (県芸文協主催) 2月27日(木) ～3月2日(日)	会報発行 (122号)		

令和元年度 収支予算

自 平成31年4月1日
至 令和2年3月31日

収入総額 2,002,000円
支出総額 2,002,000円
差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
前 年 度 繰 越 金	139,224	261,899	122,675	
会 費	816,000	750,000	△66,000	本年度分 @3,000円*250名
寄 付 金	120,000	120,000	0	常任理事・理事 @2,000円*60名
事 業 収 入	860,000	840,000	△20,000	広告料、連盟展出品料 各事業収入
雑 収 入	30,776	30,101	△675	利息等
合 計	1,966,000	2,002,000	36,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
事務費	387,000	387,000	0	
消耗品費	38,000	38,000	0	文具品、出納簿、コピー、諸費
通信費	159,000	159,000	0	郵送料、切手、案内ハガキ
会議費	100,000	100,000	0	役員会議会場費等
交通費	80,000	80,000	0	役員会議旅費
諸費	10,000	10,000	0	支払手数料等
事業費	1,516,000	1,497,000	△19,000	
総務部費	45,000	44,000	△1,000	事務打合せ会場費等
研修部費	160,000	159,000	△1,000	研修会、新年研修会、講師謝礼等
展覧会部費	267,000	266,000	△1,000	県書道連盟展等
広報部費	50,000	50,000	0	会報発行諸費
広告部費	40,000	40,000	0	活動諸費
IT部費	110,000	108,000	△2,000	ホームページ維持管理費、取材費等
連盟展事業費	230,000	230,000	0	連盟展会場費、目録、ハガキ
書初め大会費	50,000	32,000	△18,000	書初め席書大会補助金
印刷出版費	469,000	467,000	△2,000	会報、諸会合資料
筆塚供養費	45,000	51,000	6,000	供養謝儀、参加者（子供）記念品代
活性化委員会費	50,000	50,000	0	通信費、会場費等
負担金	30,000	30,000	0	県芸文協へ30,000円
表彰費	10,000	10,000	0	
慶弔費	20,000	25,000	5,000	
雑費	3,000	3,000	0	
予備費	0	50,000	50,000	
合 計	1,966,000	2,002,000	36,000	

令和元年度 第11回 秋田県新春書初め席書大会 予算

審査日 令和2年1月19日(日)
 展覧会日 令和2年1月30日(木)～2月2日(日)

収入総額 633,000円
 支出総額 633,000円
 差引残額 0円

収入の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
広告協賛金	600,000	600,000	0	協賛社40件 1件15,000円
参加費	340,000	0	△340,000	(幼、小、中、高、大学 計 人) (一般人) 人×500円= 円 人×1,000円= 円
薄茶席売上	22,000	0	△22,000	200円×110枚
雑収入	1,000	1,000	0	
連盟補助金	50,000	32,000	△18,000	
合 計	1,013,000	633,000	△380,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
魁広告掲載費	378,000	378,000	0	魁新聞紙上掲載
オープニング行事委託費	50,000	0	△50,000	
お雑煮等委託費	200,000	0	△200,000	1,000食分の材料費、その他経費
薄茶席委託費	50,000	0	△50,000	茶席委託
華道連盟委託費	40,000	0	△40,000	生け花展示委託
書道パフォーマンス委託費	60,000	0	△60,000	用紙代、及びその他経費
司会委託費	10,000	0	△10,000	
通信費	20,000	50,000	30,000	関係先への文書郵送料
消耗品費	90,000	90,000	0	用紙、文具等
印刷製本費	20,000	20,000	0	インク代等
雑費	2,000	2,000	0	振込み手数料等
表彰費	20,000	20,000	0	表彰景品代
筆耕費	45,000	45,000	0	賞状筆耕料
人件費	28,000	28,000	0	作品展示補助作業
合 計	1,013,000	633,000	△380,000	

※席書大会会場改修のため、書初め実技はなし。作品を募集し、審査を行う。

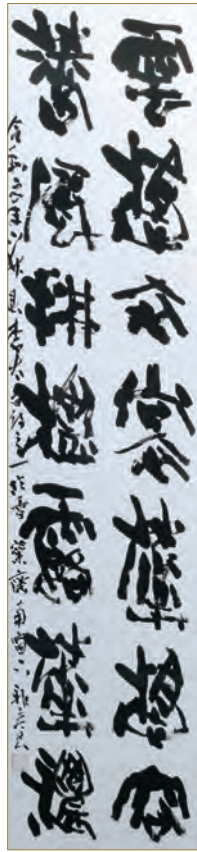
第58回 秋田県書道連盟展

— 令和元年8月2日～5日 会場 アトリオン —

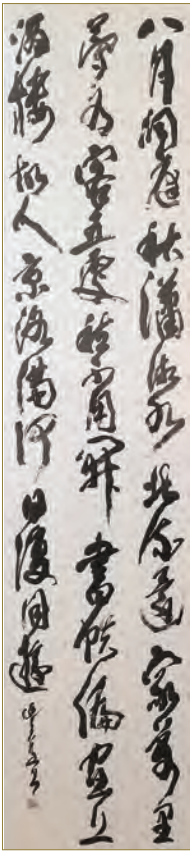
第58回秋田県書道連盟展が8月2日～5日までの4日間、アトリオンで開催されました。

会員が俳句や漢詩、現代詩などを題材に125点を出品し、震災復興応援メッセージ展にも多数の出品があり、盛会に終了しました。

4日には、会場で互評会、日吉八幡神社で筆供養が行われ、終了後、秋田パークホテルにおいて、佐川新会長、日吉八幡神社の斎藤宮司さんなど、44名の出席のもと祝賀の懇親会が行われました。



長沼雅彦



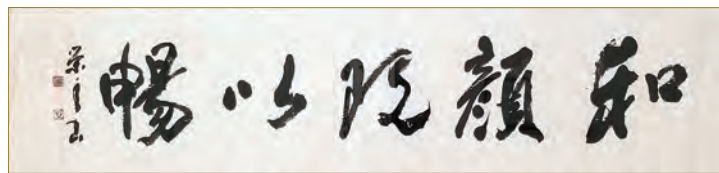
藤原豊道



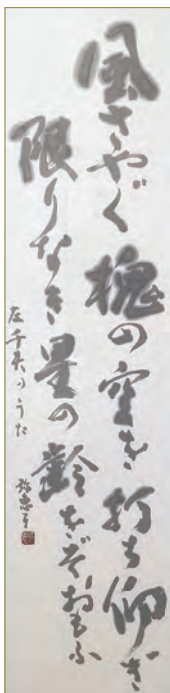
北畠龍門



加藤了楓



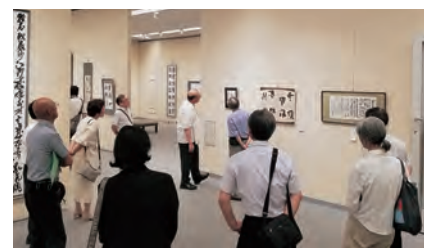
若松栄香



小島弥恵子



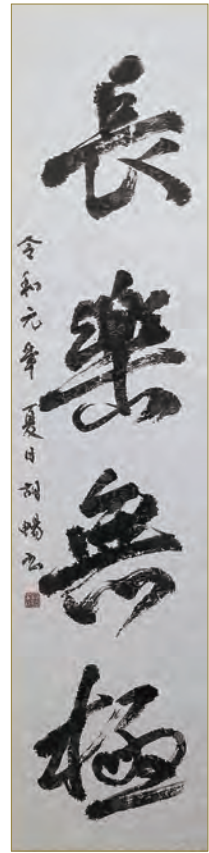
藤原瑛翠



互評会

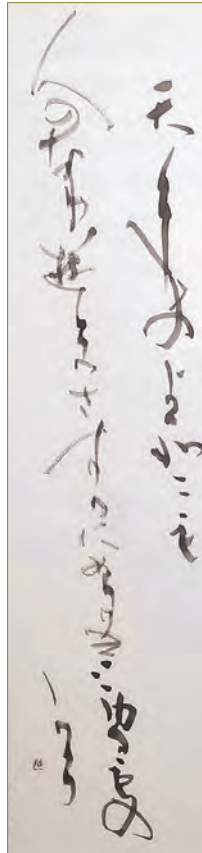
初出品者の紹介

藤原胡暢 (秋田市)



後ろから、ちよつと背中を押されて、気がついたら初出品と相成りました。
 軽い気持ちで扉を開いたら、見えた世界が一変し、素晴らしい作品に圧倒されました。
 素晴しい作品に圧倒されました。
 書き不足を補うため、地模様紙を選んでみました。いつもながら、先生のマジックにより、連盟展に参加させて頂きました事に、感謝しております。
 未熟で、好きだけでは通用しない甘さを痛感しておりますが、お仲間に入れて下さった会員の方々にお礼申し上げます。有難う御座いました。

碩 伸子 (秋田市)



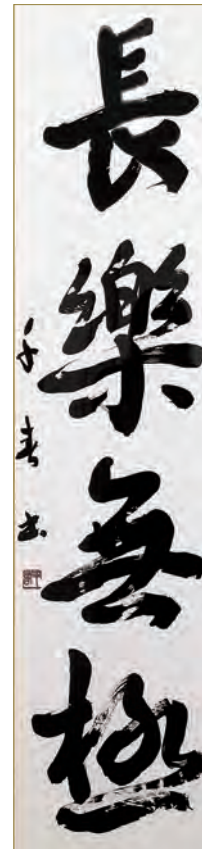
私は、昨年仕事を卒業しました。そのため、今までより書道に向き合う時間が増えましたので、この度思い切つて、秋田県書道連盟展へ出品させて頂きました。
 しかしながら、本日先生方のすばらしい作品を拝見して、圧倒されてしまいました。私も、このような迫力のあるすばらしい作品を書いてみたいと、思いを新たにしたいです。
 私は、墨の香りが大好きです。墨と和紙に囲まれて、おだやかな時間を過ごせたら、こんな幸せなことはありません。まだまだ未熟な私ではありますが、少しでも上達できますように精進して参りますので、どうか今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

小坂白悠 (秋田市)



この度は秋田県書道連盟展に初めて出品させて頂きました。日々の忙しさの中で練習時間が思うように取れず、今回の作品は未熟な作品となりました。しかし書道が続けさせてくれている家族に感謝し、多く書けない分は集中して作品作りに取り組み、「挑戦は学ぶ機会」と思い、これからも努力して参りたいと思っております。
 連盟の先輩の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

栗林千春 (横手市)



藤原瑛翠先生に御指導を仰いでいる横手市の栗林千春と申します。この度秋田県書道連盟に加入させて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。
 八月の連盟展に漢字課題を初めて出品しました。半切に漢字四文字は、字の大きさ、バランスの取り方がなかなかつかめませんでした。でも「長樂無極」は好きな字でしたし、特に「樂」は関心のある字だったので勉強になりました。会場と同じ課題三十点近くを見たときは、まるでそこにそれぞれの人が立っておられるような感覚を受けました。
 このような機会をいただきましたことに感謝しながら、今後も精進してまいります。

筆供養神事

—感謝を込めて「筆供養」—

8月4日、秋田市八橋^{ひえ}の日吉八幡神社で、使い終えた筆に感謝する「筆供養」が行われました。連盟会員や書を習っている児童ら約70人が出席。2001年に連盟が建立した筆塚に連盟会長、理事長と小中学生の代表が玉串をささげた後、持ち寄った約80本の筆を納めました。この供養は、道具に感謝し書の上達を願おうと毎年行っております。



筆塚



筆供養の様子



祝賀会の様子



筆くように参加して

秋田市立川尻小学校三年

橘 いちかさん



わたしは
夏休みに、八
ばせにある日
吉八まんじん

社で行われた筆くようにはじめて参加しました。筆くようは、みんなでおはらいや、おいのりをしたりして、まるで筆のおそう式のようにでした。とてもあついでの中でのくようだったけれど、今までがんばってくれた筆にかんしゃをしてみっと書道が上手になるように、わたしががんばりたいと思います。さい後にもらった小筆も、大事に使っていきます。いっしょに行った、ようち園の妹も小筆をもらって、妹も早く書道をやりたいたいと言っていました。来年もまた、筆くように参加したいです。

書の広場 第37回 秋田県高校席書大会報告

期日 令和元年8月10日(土)
 会場 秋田北高等学校 体育館
 課題 (漢字の部)

高校1年 孟法師碑
 高校2年 集字聖教序
 高校3年 十 七 帖
 (仮名の部)
 高校1年 高野切第一種
 高校2年 寸松庵色紙
 高校3年 関戸本古今集

夏だ！サザンだ！席書大会だ！
 大曲高校書道部顧問 竹村 天祐



▲席書風景

「夏は汗をかいて席書の稽古」
 このような思い出を持つ書道連盟の会員の方は大勢いらつしやると思いますが、第37回全県高校席書大会は8月10日土曜日、席書は秋田北高校を会場にして行われ、その作品は8月10日から12日までアトリオン2階第2展示室と3階の研修室に展示されました。席書大会は毎年小中学校と同じ日程で開催でしたが今年も県立武道館の日程の都合で、初めて別日程での開催となりました。高校では芸術科書道

を担当する教員がドンドンと減少していますが、秋田県内の書道部員は年々増加して300名を超えています。学校に書道の教員がいない分、連盟の先生方にご指導いただいている部員は多いと思います。今年は昨年より若干参加者が少なく、また当日の集中豪雨で電車が遅延したため250名程が秋田北高校の体育館に集合しました。今年の課題は1年生が孟法師碑、2



▲作品展示風景

第71回 毎日書道展

第71回毎日書道展の鑑別と審査が東京国立新美術館で行われ、出品点数2万8077点の中から入賞・入選者が決定いたしました。本連盟会員の入賞・入選者は次のとおりです。

〈入賞〉		
毎日賞	木村 光楊 (漢字I類)	湯 沢 市
佳作賞	菅原 松香 (漢字I類)	秋 田 市
	寺田 敦子 (漢字I類)	横 手 市
	遠藤 佳苗 (近代詩文)	由利本荘市
入 選	小田島和翠 (漢字II類)	横 手 市
	柴田布沙子 (漢字II類)	横 手 市
	柿崎 真翠 (大)	秋 田 市
	菊地 謙二 (大)	由利本荘市
	小島弥恵子 (大)	由利本荘市
	佐々木幸子 (大)	由利本荘市

第36回 読売書法展

第36回読売書法展の最終審査が東京・サンシャインシティ文化会館で行われました。本連盟会員の入賞・入選者は次のとおりです。

〈漢字部門〉		
特 選	佐々木汪心 (秋 田 市)	
秀 逸	眞田 錦水 (横 手 市)	
入 選	田村 芳汀 (秋 田 市)	
	長沢 薫 (秋 田 市)	
	野村 玉泉 (秋 田 市)	
	藤原 胡暢 (秋 田 市)	
	関 緑風 (横 手 市)	
	巽 紫龍 (大 館 市)	
	佐藤 珠苑 (北 秋 田 市)	
〈かな部門〉		
秀 逸	武藤 艸舟 (秋 田 市)	
入 選	麻木 照子 (秋 田 市)	
	伊藤 京子 (秋 田 市)	
	碩 伸子 (秋 田 市)	
〈調和体部門〉		
秀 逸	奥山 朱鳳 (大 仙 市)	

年生は集字聖教序、3年生は十七帖です。2年生の課題は蘭亭序と風信帖と集字聖教序のローテーションです。ただ、風信帖は1、2通めが課題で3通めは課題外なのでご注意ください。やや緊張しながらも各校ごとにお揃いのポロシャツを着て、暑い中汗を流しながら課題と取り組んでいました。席書大会が終わって書道部員にも夏休みが来るのでした。

第61回 秋田県美術展覧会(県展)

令和元年6月28日～7月3日

▼会員の受賞者作品

写真は、秋田魁新報社提供

— おめでとうございます —

◆特賞 (秋田県知事賞)

前田 祥 穂 (秋田市)

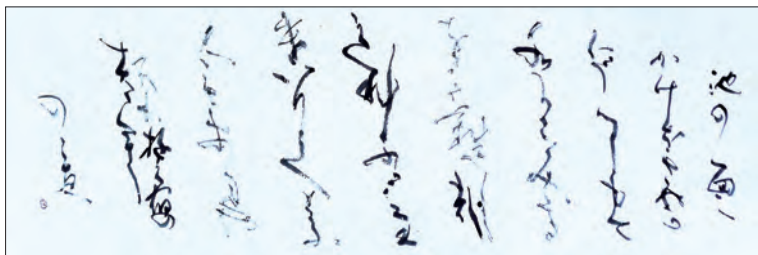


令和と元号が変わり、七十代を目前にした私の元へ思いもよらない吉報が...

十二年前、受賞の栄誉を賜り、これは天からの贈り物で、二度とないと思っていただけに、今回の受賞は驚きでした。大変光栄に存じます。

これも偏に、時には横道、寄り道する私を、軌道修正にご苦労なさり乍らご教示下さった三浦先生、いつもあたたかいお言葉で励まして下さる書友の皆様のお蔭と、心から感謝致しております。また、沢山の方々からお祝いのお言葉を頂戴致しましたことを、今後の心の糧とし、この場をおかりして御礼申し上げます。

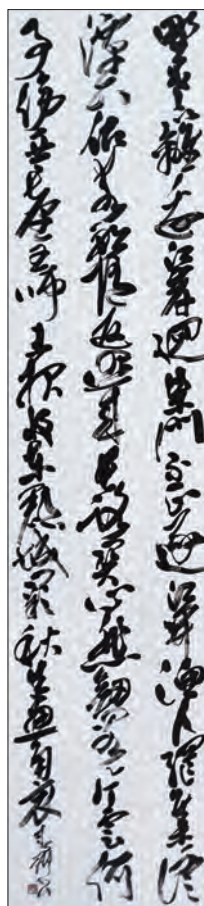
筆に墨を含ませ紙にむかうたびに頭をよぎるのは、八年前の七月に旅立たれた書友のTさんの姿。若い頃からの病気で、歩行も困難となり、激痛を葉でおさえ乍ら書かれていたTさん。家族の看病只中で気力も失せた私に、踏ん張る力を与えて下さったお蔭です。天国のあなたに今「ありがとう」の気持ちを伝えたいのです。



(西行のうた)

◆特賞 (AKT秋田テレビ賞)

富 樫 春 郷 (秋田市)



(杜甫詩)



この度は秋田県美術展覧会に於いて特賞という栄えある最高賞を頂戴

致しまして、身に余る光栄と存じます。夢ではないかと何度も自問自答しました。と言うのも、今回

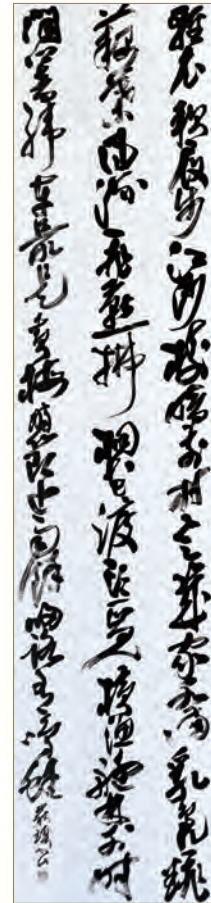
も何枚書いても何かがおかしく流れが変だとか行間がおかしいとか空間の処理が上手く出来ていないとか納得のいくものが書けてなかったのです。いつもいつも苦しい創作活動ですので自信などあるはずがなく、本当に夢のよう、心から嬉しく涙が出ました。

さて、「生きていること自体が修業」とテレビに出ていた高僧の言ですが、毎日苦しいことや嫌な

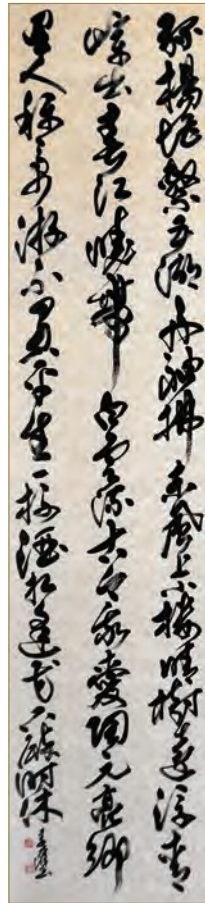
ことが沢山あります。自分も人を傷つけたり苦しめたり辛い思いをさせたりしているのではないかと日々振り返らずにはいられます。傲慢にならず謙虚に粛々と生きていることが自分の余生の指針なのですが、行うは難しです。

ただ白い紙に様々な情感を込めて字を書く、出来上がった作品がその人の思いや人生を語ってくれと考えております。これからも技術のみならず、人としての向上にも務め、常に回りに対する感謝の気持ちを忘れず、人様に感銘を与えることが出来るような作品作りを励んで参りたいと思います。今後も御指導よろしくお願ひ致します。

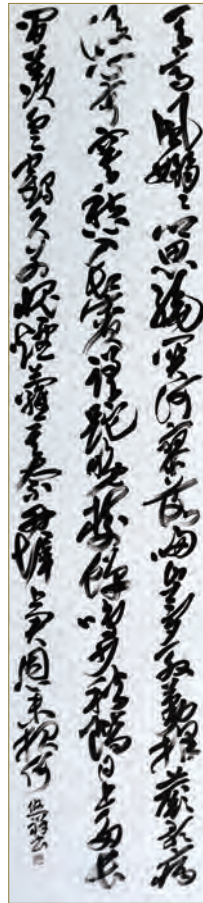
◆奨励賞



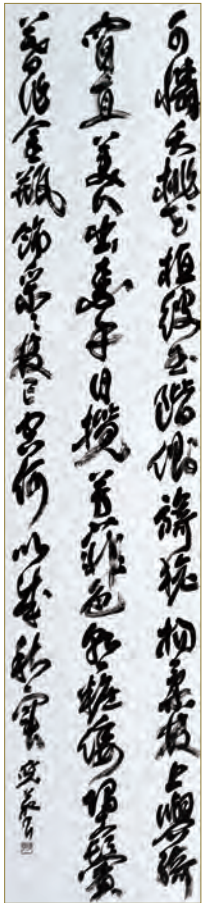
角田 萩 瑱 (秋田市)



深井 春 祥 (潟上市)



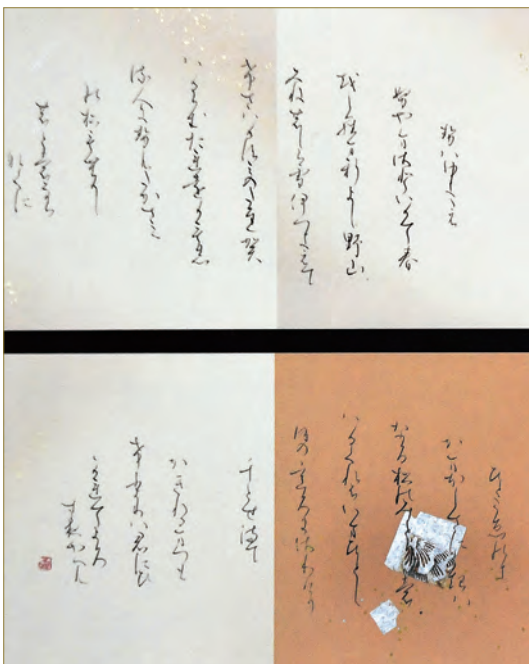
善本 悠 祥 (秋田市)



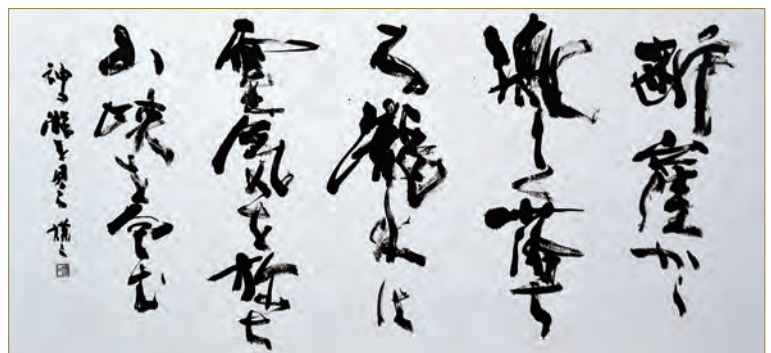
齊藤 暁 苑 (大仙市)



大 山 木 蘭 (秋田市)



嶋 野 青 城 (秋田市)



菊 地 謙 二 (由利本荘市)



連盟展への思い

副理事長 藤原 豊道

令和元年の連盟展は八月二日（金）～八月五日（月）までアトリオン会場で開催されました。

出品総点数は一二五点、内課題作品二八点、二点出品者十一名、他に震災復興支援作品である。

会員数から見れば半数に満たない出品数である。このままでは減少の一途を辿ることになる。本連盟の要である連盟展にどう参加し発展させるか会員の皆さんに働きかけ、よりよい方向に努力しなければならぬと思っている。

書道は「難しい」「分からない」と会場で耳にすることがある。なじみのない人には敬遠されがちである。現代社会ではインターネット、スマホ等情報伝達機器の飛躍的な普及で「書く」という行為が失われつつある。日常生活と書との接点が消えつつあるようで残念であるが現実でもある。又、一方で人口減少、少子化現象を理由に行動することを忘れ、身内の論理に凝り固まっています。発展どころか衰退するばかりである。「何も変えず」「何も変らず」では出品者の増加は望めない。本連盟の役員は指導的立場の人達である。一人一人が知恵を出し、声を掛け合って確かな発展に繋がることを願っております。

最後に会期中部員皆さんの働きにご苦労に心から感謝申し上げます。



人々が心を寄せ合う中で文化が生まれ育つてほしい

（平成31年4月2日秋田魁新報より）

副理事長 北畠 龍門

平成十年の頃、本連盟の会員は四百五十人を数えました。組織の結成は昭和三十九年秋「会員相互の親睦と連携を図り云々」が目的の冒頭にあります。そして時代は昭和、平成、令和と変遷してきます。

三十代に連盟の会員に加入させていただいて間もない若輩の私が「書道連盟はもつと開かれたものであつてほしい。若い人方はワープロやパソコンを使用し確実かつ広い情報や意見を持つている。これからは、もつと皆の意見や考えを取り入れて開かれた連盟にしてほしい」と総会の時に意見を述べた恥ずかしい経験を持っています。

この頃はある種の格式や年齢による格差意識があり、又グループ同士や地域的なつながりが連盟の組織的運営に大きな影響もあつたように感じました。

今、自分が連盟の責任ある一端を担わせていただいている時に、このことが常に脳裏にあります。とここで、連盟の年間行事は各担当分野の部長さんを中心に会員の皆さんの熱心な取り組みにより充実しています。また、多様なご意見ご要望等もあると存じます。機会あることにそれらを共有し更なる発展を目指したいと思えます。それにはどうぞ遠慮無く何でも言つてほしいと思えます。そのことがこれからの連盟の新しい時代への発展に繋がると思っております。

よろしく願ひいたします。



総務部

部長 二浦 湯舟

各部から

早いもので総務の仕事をさせていただきましてから今年で五年目となりました。

「新春書初め大会」では会員全員が一丸となつて取り組み、年々参加人数も増え続け大成功に到っております。今では武道館での書き初めは誰もが知る所となり書道連盟会員の長年の努力と大きな力を感じております。

総務の大きな行事の一つ筆供養は、毎年会員のご協力と子供達を指導されていらつしやる先生方のご協力のおかげで暑い中にもかかわらず、多勢の一般の方々や子供達に御参加いただき、私共総務も毎年楽しく準備を致しております。

去る令和元年七月十四日（日）第一会館本館に於いて、活性化委員嘱状交付式が行なわれ、活性化委員十名が長沼理事長から委嘱状を手渡されました。今年から、長沼薫先生が委員長となり令和と共に新しくスタートする事がになりました。二年前から始めた武道館での「書道体験コーナー」も、大変好評で、毎年続ける事となりました。今年までには無かつた若い先生達の新しい発想で今年も又、昨年と違う新鮮な良いアイデアが出て来るだろうと思つて楽しみにしています。

どうぞ今後とも総務及び活性化委員の活動に、皆様の変わらぬご協力をお願い申し上げます。

- 総務部 副部長
- 山谷 喜元・齋藤 玲子
 - 前田 祥穂・竹村 和佳・大黒 禾苑
 - 竹内 玄峰・加藤 沙秋・保坂 潤子
 - 麻木 照子・伊藤 京子・碩 伸子

- 活性化委員 委員長
- 長沢 薫
 - 横山 由希・佐藤紀公子・大黒 禾苑
 - 大山 木蘭・千葉 瑤真・松橋 聖泉
 - 工藤 歩美・小坂 白悠・保坂 潤子



研修部
部長 竹村 天祐

「情けは人のためならず」という言葉があります。これは「情けはその人のためにならないのでかけてはならない」という解釈ではありません。かけた情けは巡り巡って結局自分のところに来るのだから、そのかけた情けはその人のためではなく自分のためだ」というのが正しい解釈です。

私は小学生から書道塾に通い、書写のお稽古をしてきました。その間、いろいろな先生からご指導をいただき、多くの先輩方からご助言をいただきました。そして、そのお陰で今日、私はこれで生活の糧を得ています。これはとても幸せなことだとも感謝しています。今まで私が先生からご指導していただいたこと、皆さんから受けたご恩は私のところで止めてはならないと思います。次の世代の指導者になるうとする皆さんや、興味があり書道と取り組んでいる皆さんの少しでもお役に立つことが、私が今までに受けたご恩返しだと思っております。そう、浅学非才の身でありながら、引き続き研修部長の大役をお引き受けしました。

昨年は台風の影響で実技研修会が中止となりましたが、研修会では会員の皆さんから多大なお力添えをいただきながらなんとか進めることができました。そして、私の拙い実践を聞いていただき感謝の気持ち一杯です。ありがとうございます。元来不勉強の怠け者でおよそ研修とは縁遠い私ですので、研修部長の大役が果たせるのか不安を感じております。しかし、頼もしい副部長や研修部の皆さんの力を結集して、会員の皆さんからの協力をいただきながら力の限り尽くす決意でおりますので、どうかこれからも、よろしくお願ひ申し上げます。

副部長 会津千寿子
部 員 阿部 公美・大山 美泉・小松 紫峯
千田 寿山



広報部
部長 阿部 清楓

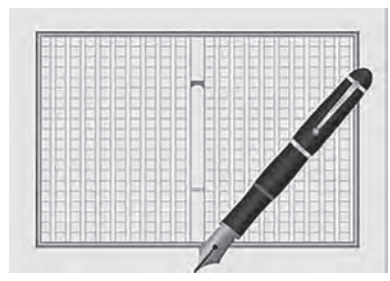
会報は年2回の発行なので、会員の皆様の手元に届く時はやや記憶が薄れかけた頃と思えますが、連盟の活動と会員のがんばりを少しでもわかりやすく紹介できるよう、各種展覧会にと取材に走り会報の発行に努めて参ります。

このたびの会報121号の発行にあたり、原稿の執筆にご快諾をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

人と人との出逢いを大切に毎日を過ごしておりますが、最近、「あなたに逢えてうれい私」の詩にめぐりあいました。いつか作品として発表したいと思っております。

今後ともよろしくお願ひいたします。

副部長 東海林汎山・伊藤 清子
部 員 伊藤 雅人・田中 敏雄・角田 萩瑠




広報部
部長 上野 泰夫

先ず、書初め席書大会や小品書展の広告掲載にあたり、協賛、協力をいただいている秋田魁新報社や広告主の方々に御礼を申し上げます。

「第10回書初め席書大会」は42社の協賛をいただきました。

次に「第3回小品書展」は前回より、新規に13社増やして45社の協力を得ました。最初に電話で広告主へ内容の説明をして、その後、依頼文書を持参。ロゴ・デザインを決めていただき印刷会社との打ち合わせを行います。そしてパンフレット（出品目録）を持って広告主の皆様にお礼の挨拶に伺うという段取りです。一社、前後2回の顔出しで、100回位訪問していることになりました。広告の掲載を断られることもあり決して楽ではありませんが、各広告主が気持ちよくついて下さり感謝しております。「書初め」と「小品書展」合わせて87社、85万3千円の収入となりました。

ところで、インターネット・SNSにおけるアウンサーや芸能人への悪口とも思える書き込みに出会うことがあります。中には、間違ったウソの書き込みや悪意に満ちている文言が書かれています。

事実と異なる誹謗中傷とも思える記事に「それがインターネットだ」と言う人がいますが、だからと言って何を書いてもいいとは限らないと思う。言論の自由があるとはいえ、その意味をはき違えてはならない。最近の世相から少し感想を書いてみました。

すでに8月から次回の広告どりに入っています。今年度も宜しくお願ひ致します。



今期もIT部は前期同様、ホームページの管理運営のため、次の基本方針を基に進めて参ります。

■基本方針

- ・書道文化の振興と向上、会員相互の親睦
- ・情報を早く正しく分かりやすく
- ・著作権・肖像権・個人情報・表現などの配慮

ホームページは、県連の情報や会員の作品掲載等を随時更新いたします。

また先日、名簿作成の年あたりメールアドレスのご登録をお願いしましたところ、たくさんのご登録をいただきました。これを県連の活潑な活動に反映したいと思っております。

皆様からご意見ご要望等ございましたら、お気軽にお知らせ下さい。
今度ともご支援ご協力よろしくお願いいたします。

ホームページアドレス

<http://www2.tbh.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

部 員 佐藤 綾子・佐藤 州華



活性化委員会 委嘱状交付式

令和元年七月十四日(日)午後三時から、秋田市・第一会館において、活性化委員の委嘱状交付式が行われました。委員会活動や、委員の皆さんの活躍が大いに期待されます。



活性化委員 (10名)

- 大黒 禾 苑 大山 木 悠 蘭
 工藤 歩 美 小坂 白
 佐藤 紀 公 子 千 葉 瑤 真
 長 沢 薫 保 坂 潤
 松橋 聖 泉 横 山 由 希

あきた芸文ニュース 第38号より

秋田県書道連盟の活動状況

理事長 長沼 雅彦

当会は昭和39年に、それまでの「秋田県書道会」を発展的に改称し発足した。爾来秋田県の書道文化の向上をめざして活動を続けて来ている。それではその具体的な活動について紹介したい。

一、展覧会開催。「秋田県書道連盟展」「新春小品展」連盟展は今年度で57回を数える。

特に40周年記念には、甘肅省書法家連盟と当会との聯展、50周年には韓国書芸協会と青森書道振興会議、岩手書道協会と当会の共催としてそれぞれの代表を交えてにぎやかに行われた。

二、研修会開催。「実技研修会」「新年研修会」実技研修会は会員相互の書の技術向上をめざして行われる。

三、広報。会報発行(年2回)

四、事業等。「秋田県新春書初め席書大会」「筆供養」書初め席書大会は今年度で10回を数える。魁

新報、秋田県立

武道館と当会の

共催である。幼

児から成人まで

参加者はおおよそ

600人。秋田

県の伝統文化、

武道の第一人者

のご協力を得て

書道文化とのコ

ラボレーション

を実現したもの



秋田県新春書初め席書大会の様子

《これまでに開催された主な展覧会（連盟会員所属団体）》

第51回六葉会
平成31年4月12～15日



第26回瀾の會小品展
平成31年4月12～14日



第33回秋田一東書道会展
令和元年5月6～8日



第57回秋田市書道会展
平成31年4月19～22日



第11回秋田草心会書展
令和元年7月19～21日



第16回大同書展
令和元年5月9～13日



第33回清芽会書展
令和元年8月9～12日



第55回書友同人展
令和元年7月12～14日



会 員 募 集

日頃から、本会の運営につきましては、格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
本会は、より多くの書道を愛好する皆様に活躍と研修の場、作品発表の場、会員相互の情報交換の場
などとしていただくため活動しております。

会員は随時募集しておりますので、事務局までお問い合わせ下さい。ホームページもごらん下さい。

事 務 局 秋田市泉菅野一丁目18-1 三 浦 湯 舟

ホームページ <http://www2.tbb.t-com.ne.jp/aki-shodorenmei/>

総合書道用品販売

- ◎ 展覧会・企画・展示
- ◎ 〈表具〉〈額装〉〈軸装〉
- ◎ 各種展覧会搬入搬出承ります
- ◎ 文房四宝・低価格にて提供しております

株式会社 クラヤ

〒010-0952 秋田市山王新町4-5
 TEL 018-863-6001 FAX 018-863-6004
 ホームページアドレス <http://www1.ocn.ne.jp/~kuraya>
 メールアドレス kuraya@seagreen.ocn.ne.jp

美術表装一式

掛軸、和額、屏風、襖

中山表具店

〒011-0917 秋田市飯島道東二丁目4番10号
 TEL 018 (846) 8496

筆、墨、硯、紙から額縁まで全品3~4割引
貸額、軸装、古軸仕立て直し承ります

書道用品専門店

東方交易 秋田店

午前10時~午後6時(日曜日・祭日は午後5時迄)
(アトリオン休館日と年末年始は休業)

〒010-0001 秋田市中通二丁目3-8 アトリオン地下1階
TEL / FAX.018(837) 2220

特設コーナー他お買い得商品が満載 ネットショッピング

楽天・Yahoo・amazon
 はがき、電話、FAXでもどうぞ

那 墨痕あざやか 波

あなたの筆勢を伝える筆。
「書」の心をうつす墨、紙。

那波紙店

〒010-0921
 秋田市大町四丁目3-35
 ☎ 018-823-4311(代)

あなたの発想を



カタチに。

株式会社 塚田美術印刷

〒010-0921 秋田市大町一丁目6番6号

TEL 018(823)5551(代) FAX 018(823)5553

一般書道 総合誌
教育書道

書友

66年の歴史をもつ秋田県随一の月刊書道誌
書写指導に好評を得ております。

書友社

〒010-0954 秋田市山王沼田町11-11
 TEL 862-3484 FAX 862-3485